

統合国際深海掘削計画（IODP）の普及・教育活動

IODP education and outreach activity in Japan

IODP 普及広報教育検討グループ 巽 好幸[1]

Tatsumi Yoshiyuki IODP-Japan Education/Outreach Committee[1]

[1] -

[1] -

<http://www.aesto.or.jp/j-desc/>

1968年から開始された海洋域における科学掘削は、DSDP(Deep Sea Drilling Project)から ODP(Ocean Drilling Program)へと引き継がれ、そして2003年10月からは、我が国が建造中のライザー装置を装着する地球深部探査船「ちきゅう」と、米国が用意する非ライザー型掘削船、ヨーロッパ諸国が提供する特定任務掘削船の、少なくとも3種類の掘削船を用いたIODP(Integrated Ocean Drilling Program)として、新たなステージに入った。IODPでは、わが国と米国とが、オープンパートナーとして計画を遂行する。従って、わが国のIODPに対する取り組みは、米国主導で行われてきたこれまでの深海掘削計画と必然的に異なり、掘削船の運航、掘削計画の管理運営に加えて、科学面でも主導的な役割を果たすことが要求される。しかしながらわが国は、国際的なリーダーシップの下に大型の国際共同研究を遂行した経験に乏しく、その実施体制・研究支援体制を構築した例もない。

わが国が国際的な責務を果たし、IODP計画を成功へと導くためには、様々なコンポーネントからなる科学支援を、戦略的に実施することが肝要である。その1つは、IODPによる研究成果を広く国民に周知し、地球システムに対する正確な認識を深め、IODPについては地球生命科学に対する広範囲な支持を得るための戦略的な活動をおこなうことである。

現在、日本地球掘削科学コンソーシアム IODP 部会では、掘削船の運航母体である地球深部探査センターと共同で、IODPに関する普及・教育活動の展開を計画している。この中では、市民向け講演会、戦略的なマスコミ報道、大学での講演会などとともに、理科教育現場の教員を対象とした後援会、中学高校生を対象としたサイエンススクールなども実施予定である。